

日時： 5月26日（木） 11時～12時

場所： 参議院議員会館 地下一階 B108 会議室

名称： 退役技術者による 福島原発暴発阻止行動プロジェクトに関する会議

退職技術者団による福島原発暴発阻止についての会議 第三回目

牧山議員 司会進行役として私、参議院議員牧山ひろえがこれから会を催したいと思えます。たった2時間の会議ですが、ここで何をやりたいのかと言いますと、まず一番に、大きなプロジェクトですから、この団体と東電と政府、この三者をなんらかの形で結ばなくてはなりません。そのためにはより多く賛同してくれる政治家を増やさなくてはいけないのです。二つ目に、世論も動かさなければいけない。そのためにはマスコミの力をお借りするしかない。そのためにはこの部屋にいらっしゃるみなさんの熱意とお声をこの部屋の外に届けなくてはならない。今マスコミの方々もいらしておられますが、マスコミを通じて世論を動かす。三つ目は、今までみなさんはたぶん山田さんとインターネットで繋がっていたと思うんです。でも 実際に生の声をお互いに聞いて顔合わせをする、そして団結してこれからがんばろうという気持ちになって頂きたいと思うんです。そういう大きな趣旨がございます。今日は質疑応答の時間をメインとさせていただきます。また今日は癌研究会の土屋先生もお招きしておりますので、特に医学に関してのご質問は土屋さんに、またプロジェクトに関するご質問は山田様にお寄せ頂ければと思います。

山田 あちこちに露出していますので私の顔はどっかでご覧になったと思いますが、私の方からみなさまにお会いするのは初めてでございまして、こんな機会を作って下さった牧山先生に御礼申し上げます。この呼びかけをして、変に政治団体的な動きをしたくないということもあり、みなさまの声を盛り上げて、それで政府や東電、あるいは世界の人達に呼びかけるということやっていきたいと思っているので、あえて集会をしない方針です。ずっときたんですが、牧山先生のご熱意で、こんな形で政治家の方々に声をかけるチャンスを頂けるというのは大変ありがたい。これを機会にみなさまともお会いできるというのは非常に嬉しいことで、あえて禁を破って集会を持ち、みなさまの声を聞きました。この間にも内外の多数のメディアが我々の活動を取り上げており、政府あるいは政治家の方々にもいろんな形で声をかけております。管総理の耳にも間接的には入っているらしい、近々政府としての動きができる可能性も出てきたという感触もあり、ここ一押しというところに来てます。みなさまがここで発言された声は今もインターネットを通じて広く伝わってゆくことを踏まえて、みなさまの忌憚のないご意見をここで発言して頂きたいと思えます。

牧山議員 ここで公益財団法人がん研究会の土屋了介医師にお話を伺いたいと思えます。

土屋医師 ただ今ご紹介に与りました公益財団法人がん研究会、聞きなれないとは思いますが、通称がん研有明病院を運営する財団でございまして。この四月から公益財団法人に

なりまして、私は理事を務めております。退職技術者による福島原発阻止活動については、その心意気に敬意を表します。また東電の現場の方、自衛隊の方、消防庁の方、警察の方が、現場の非常な悪条件のなかで国民のために一生懸命やっていることに、あらためて敬意を表したいと思います。私が医師としてこういう活動を拝見した時、どんな協力できるかということ、まずは正確な医学的な情報をみなさまに提供することであり、またそれに対してどういう対処が必要なのかということ、私達なりに考えてお示しすることが、専門家としての役割だろうと思っております。

みなさんが活動されるについて考えなければいけないことの一つは放射線による影響ですね。これは若い方には影響が大きいですが、私も65歳になりますが、60過ぎて定年退職した者にとっては、若い人ほど負担は少なからうということがひとつある。放射線の影響はみなさんがご存知のように、確率的な見方と確定的な見方という、放射線医学的に二案ありますが、医学的には、放射線に当たった時に、急性期に反応することと晩期に影響が出てくることと、大きく二つに分けます。急性期なものはよく言われるように酩酊ですね。お酒に酔ったような感じがするとか、さらに影響が出ると細胞が破壊される。それによって最悪の場合には白血病になる、というようなこともあります。これは相当な量が当たった場合ですが、事前に充分準備をしても予測できない事故が途中でありますと、当然そういう被曝を受けるということになります。これに対して虎ノ門病院の先生方は、事前に骨髄を採っておいて、そういうことが起こったときに骨髄を自己移植できるようにしてはどうかというご提案をなさっている。それ以外に目の角膜とか、体の表面の細胞とか、こういうものは日夜新陳代謝していて、特に消化管の粘膜は非常に弱いところありますので、まず真っ先にそこがやられる、というようなことがあります。早い時期に。放射線が医学的に本当に怖いところは、後で影響が出てくることです。例えば癌で放射線治療をやりますと、その箇所に6週間くらいかけてる間は、例えば胸の写真を撮ってもほとんど影響はないのですが、六ヶ月ぐらいするといわゆる放射線肺臓炎っていうのがあります。線維化が起こってレントゲン写真で白くなってくる、後になって影響が出てくるという晩期の反応があります。普通の怪我ですと、その時が最大の障害で後は治ってゆくしかないんですけども、放射線の場合には被曝してすぐの反応よりも時間が経過してからですので、一番心配される癌については、いわゆる血液癌でいえば白血病というのが、広島とか長崎の研究ではだいたい2年後ぐらいをピークにだんだん発生して、その後はどんどん減ってゆくということですが、肺癌など一般的な、形のある癌、固形癌といいます、こういうものは20年30年経ってから出てくると言われております。ですからそういうことを頭に置いておく必要がある。逆に言うと若い方、今20代の方が受けると40代60代になって影響が出て可哀想だ、私ども60過ぎだと40年経てば100を越えるので、さほど現実的でないというところが、みなさんが決意された基であろうと考えております。

ただみなさまが現場でお手伝いされる時に、私が医者としてもうひとつ心配するのは、防護服を着なければならぬことです。塵や水を避けるだけなら長靴やコートを着ればい

いのですが、手袋もする。手袋もゴムですと、私は外科医ですので手術で一時間二時間、長い時は丸一昼夜やったりするんですが、そうすると手袋、手と足を包むところが結構熱を発散しているのですね。形のわりには表面積が広くて血液の流れが多いので、人間の体温の調整などをこういうとこでやっている部分が多い。これを塞いでしまうと逃げ場がない、汗も結構溜まってくるということで、この前お一人倒れられた方が60過ぎの方でした。こういう方が熱中症という状況になってくる。当然全部パックされていますので湿度も高いし熱も持つということで、これに対しては残念ながら60過ぎの方が弱いのは当然です。体力的に。若い方の方がここは強いということがありますので、これも管理する必要があります。それと放射能が強い場合には、私どもは医学的に放射線の下で検査をやります。胃の透視とか血管造影とか。その時は鉛で被った服を着て検査に立会います。鉛ですから数ミリでも非常に重いんですね。こういう面でも体力をかなり消耗する。つまり、放射線の直接の影響と、放射線防御のための服を着ることによる影響、この両方を管理する必要があります。健康管理という点ではこの両者を考えて事に当たる必要があるだろうと思います。

そうしますとやはり参加される事前にチェックしておかなきゃならない。元気だと思っただけでも階段を登ったら息切れするという方もいらっしゃいますので、事前のチェックが必要です。さらに作業中もチェックが必要ですし、なによりも事後の評価ということが大事だと思うんです。そうすれば次に行く2番手3番手の方のために最初の方のデータが生きますので、そういうプログラムを作っておくというのが大事ではないか。そういうことが、このプロジェクトを聞いたときに私達専門家として、皆様の安全確保の観点から考えたことです。ただ、まさに予測しないことも起こる。それに対するクライシスのマネジメントも、想定できる範囲のことはあらゆる事態を考えておかなければならない、その一番の例が虎ノ門病院の先生方がおっしゃっているようなことだということをおっしゃって、私のご挨拶代わりとさせていただきます。

福島議員 衆議院議員の福島伸享と申します。私の地元は水戸を中心とする茨城1区で、私の生まれ育ったところです。私の父親は日立製作所の発電所の制御関係のエンジニアだったので、浜岡原発の制御などにも関わって仕事していました。私は議員になる前は経済産業省におりまして、原子力発電所の立地の促進のために電源立地交付金を配るという仕事を致しましたし、JCOの事故の後にはその後始末をする仕事も手伝わせて頂きました。そうした経験から今回の原発の事故はまるでわが事のように思っていて、それはこれまで日本の経済や技術をひっぱってこられた多くのおみなさまも同感の思いだと思っております。私の地元にも多くの原研や動燃のOBのみなさんがおられまして、なにかできないかという声を上げており、この2ヶ月来官邸も含めていろんなところに話しているのですが、なかなかそういった人を活かすためのマネジメントができない状況でございますので、どうか今日は、みなさん何ができるのかご議論頂いて、私としても政府に話を繋げる

なり、同様な思いを持った方々に声をかけさせて頂き、皆様の尊い思いを実現させるためにがんばって参りたいと思っております。

井上 （議事進行について延々と異議。政治家を優先してしゃべらせるな）

高橋 まず、このプロジェクトの名前を私自身は「原発救助隊」と呼んでいます。次に、この救助隊に隊員あるいは支援者として手を挙げて下さったみなさんは、まずは可能なかぎり、浜岡や福井の美浜、四国の伊方、九州の佐賀の玄海、特に後の二つはプルサーマルをやっていますが、ここで老朽化した各原発を安楽死させること、そのための方法は放射線を出すものを封じ込めないといけない、そういう作業をやるということを私は提言したい。それは実際に事故現場に行く訓練になると思います。それから科学者と設計者のチームを創設してほしい。科学者のチームは放射性物質の封じ込めの研究を早急にやる。設計者のチームは、例えば六ヶ所村のように一箇所にとまどめて封じ込めるのではなく、作られた放射性物質をそのまま封じ込めることも考えた方がいいのではないか。福島で実際に大きく壊れた現場を見ると、あの場所で封じ込めるしかないと私は見えています。次に自衛隊の活用です。私自身は自衛隊は災害救助隊に再編すべきと思っています。福島の原発で活躍したのは東京や大阪の消防チームと自衛隊です。したがって自衛隊の中から志願してもらい、国のプロジェクトとして自衛隊を再編して活用すればいい。最後に政治家の役割は、法律を作ってもらって法律の下で活動しないとけない。浜岡原発の停止が要請だったのは法律がないからです。この災害時には党派を超えた協力体制で挑んでください。

山田 今のご提案は盛り沢山の内容がありまして、これを全部やるのは私どもの力じゃ身に余るというのが正直な状況で、それなりにきちっと取り組みたいとは思いますが、私が呼びかけの中でしていることは現場の作業の部隊をどうするかということだけに絞ります。なぜかというと、多くのことをやればやるほどいいんだけど、多くのことを言えば言うほど賛否が分かれ、いろんな意見が出て全体がまとまらないし、力が分散してなにもできないことになりかねない。これが反対運動だったら反対すりゃいいんです。なんでも取り上げて反対することは可能ですけれども、実現するのにそんなに多くのことを一遍には残念ながらできない。このチームは少なくとも現場の作業の部隊をしっかり作ろう、今のようによ下請け孫受けが、どこの誰か分からない人がなにかやらされて、それで放り出されているという状態、そういうモチベーションのない状態で仕事をするのではなくて、俺達がここでやるぞという人間が仕事をしようという部隊を、国がサポートした組織として創ることを要求する。これだけに絞ります。高橋さんのおっしゃってることが間違ってるとは私は一言も申しませんが、このチームでできないことは致しませんがコメント申し上げます。

高橋 私が提言した自衛隊というのは、ここのチームの下に動くという形態にすると私は

考えております。

山田 私は自衛隊の現役の方々には若すぎると思います。自衛隊の現場の定年は60じゃないんです。何歳だか聞いていませんけどちょっと若いはずです。だから自衛官のOBっていうのは体力が余っていてみんな力を持て余しています。実は、自衛官のOBがかなり大勢応募して頂いております。特に20日以降に福島と宮城の新聞に載ってからは、自衛官のOBから、少なくとも私の記憶では5、6人から電話がかかっています。その方々と話をして、自衛官のOBを組織するのではなく、自衛官のOB会が声を上げて自衛官のOBがひとりひとり我々のこのチームに応募して頂く。我々と同じように並んで、自衛官のOBもここにいるよっていうチームを作ろうということで、基本的な方向を考えています。

牧山議員 あらかじめご了解を頂きたいのですけれども、政治家の方がこちらにお見えになった場合は、お名前だけでもご紹介させて頂いてもよろしいでしょうか？ と申しますのは特に議員立法を作る場合に署名を何十人も集めて、賛同者が集まって議員立法っていうものができるんです。そのためには議員の方々がこの会にちょっとでも顔を出して頂いたら、そういう方もできたら内に巻き込みたいんですよ。もし議員立法を作ろうということになって、署名が回って来た時に、あの場で自分も加わったのだからやらなければという気持ちをみなさんに持って頂きたい。これだけはお願ひしたいと思います。

井上 （執拗に異議。牧山・山田と院内集会の意味についてやりとり）

西村 先ほど忙しい忙いって話がありましたけど、私は暇です。時間のことは全然心配無用かと思います。私の原発暴発に関する知識はテレビのワイドショーでしかありません。ああいうのを見ながらこういう暇人に何ができるのであろうかと常々考えておまして、こういう組織があるということで参加させて頂きました。技術者としての知識をなんらかの形で活かしたいという気持ちがあればこの会に参加して、何ができるかを考えると思いますので、ただ単に力仕事であれば、なにも退職技術者なんてことを詠う必要がないわけですよ。

井上 4月末に発行された『週間現代』に、「大量被曝の危険性が分つていながら平成の特攻隊に福島への突入命令を出せますか」という意味の4頁の記事がありました。その最後の方に65歳以上を集めるという内容が載っています。ちょっと読ませて頂くと、「突入命令を出せる。あるいはもっと露骨に、まさに外人部隊のように、政府が特攻隊に直接お金を出す可能性もある。実際、ある政府関係者はこう証言する。『まだ正式に進んでいるわけではなく、政府の一部で“頭の体操”的に考えているだけですが、最後には特攻隊を政治

の責任で結成するという案が出ています。メンバーの対象は 65 歳以上で、1 日の報酬 10 万円、1 回の作業は 30 分程度。これを月に 2、3 回やってもらうというものです』。これがどの程度信憑性のある意見なのかは分かりませんが、私はこれを読んでブログに、一般国民から、技術屋とか条件を付けなくて、60 歳から 70 歳の志願者を募るべきだ、という記事を書きました。お前らは偽善者だというコメントも来ましたが。私も雑誌や新聞を読んで一番気になるのは、原子力発電所においては下請け業者の役割が非常に大きいことです。原発で働いている人は下請け業者、東電も方もいますけど、私の資料に現場での労働者の統計が書いてあります。正しいデータかどうかは分かりませんが 1238 名とかなり具体的な数が書いてありまして、本社 50 人が補給に当たっていると。下にずっと東京電力の指揮の下に働いている下請けの会社名が書いてありますが、一次受け二次受け三次受けと七次受けぐらいまであるそうですが、作業員の中にはおそらく歳を取った人もいられるでしょう。その後山田さんの記事を mixi のニュースで見まして、ぴったりの人がいるんだなと思って非常に注目したわけです。私の違和感は、なぜ技術者なのだろうかということなんです。現在 160 名の志願者が集まっているようですが、私の予想と違って一桁少ないんじゃないかと思っています。その原因はやはり元技術者という条件を付けるからではないかと思います。手持ちの技術で福島原発の建物に入ってなにかすると云ったって、すぐにはできないですよ、あの服を着ないといけないし、高温多湿、40℃、湿度 100% で。だから技術屋というのを外して一般国民から応募すればもっと集まるんじゃないか、それに類する作業ももっとあるのではないかと思っています。

山田 私は、今言われた全体のスコープ、つまり原発の修復に絡む全ての仕事を全てカバーするための部隊を呼びかけているつもりはありません。また、私が呼びかけた部隊を私が引き連れて現場に行つてなにかするということではなく、私が呼びかけた人達を中心になって国がオーソライズしたしっかりとした部隊を作り、それが働くという組織を作るための火付け役をする、ということ以上のもではありません。だからちゃんとした組織ができたなら、私はひっこみます。今は代表なんで呼ばれることもありますけど、単なる言いだしっぺにすぎません。仕事の範囲は非常に広いので、体力だけが勝負するところもありますし、あまり放射線はないけれど体力で勝負するところもあれば、放射線がひどくて体力で勝負というところもある。その辺りは、やっぱりわれわれ年寄りにはできないね、仕方がない、ここは若い人にやってもらわなければ、ということもあるはず。測定だけの仕事もあるし、記録することもあるし いろんな仕事があるわけで、そういう職種を全部網羅して考えたら、若い人から年寄りまで、老若男女全部含めてある。しかしそうやってしまうと焦点がぼけちゃうから、ひとまず技能者、技術者を中心に、主としてシニアが中心になった作業部隊を作る必要がある、というふうに呼びかけたわけです。それを国家レベルでちゃんと考えようよと提案しているだけのことです。

牧山議員 国対委員会にこれから行かなくてはいけないので、申し訳ないんですけど退席させていただきます。ひとつ、私はここに来る直前に八王子市にお住まいの主婦の方からお電話を頂きまして、今日は癌に詳しい土屋先生がいらっしゃると思ったので、リチウムの人体の影響について、ぜひ質問をしてくださいと言われました。それから、司会進行役として私の政策秘書のイナガワ氏にバトンタッチさせていただきますので、どうぞみなさまよろしくをお願いします。

土屋医師 最初に言い訳になりますけど、私専門が外科なものですからあまり細かいことまでは分かりません。医学的な一般的な知識としては、放射能、放射線というものには、線の種類がいくつかあるんですね。α、β、γというふうになっていますが、それと強さにもよります。これはその放射線を出す線元、今のご質問ではリチウムですが、いろんな種類の線元があります。線の種類によっていろいろ違ってくるということで、特定してどれが、どういうふうな影響っていうのは正直言って詳しくは分かりませんので、これはまた機会があれば専門の方に聞いてお答えしたいと思います。ただ一様ではないというのは、もうみなさん新聞報道やなんかでご存知ですよ。ヨウ素のように非常に短期間に半減期を迎える、短い時間の半減期でどんどん影響が少なくなってゆくものと、何十年何百年と同じ強さで放射能の能力を維持するものがある、ということは、はっきり分けて考える必要があるのは確かなことです。

イナガワ それでは引き続き司会進行をさせていただきます。

小林 あるテレビの中で小出先生が、福島へ行ってもなんら私の役立つことはないだろうとおっしゃってました。また、現実に京都大学の実験の怖い例として、そういう人に来てもらっても迷惑だとも言っていました。そういうことを踏まえた上で私は三日連続で参加させてもらってます。決行隊っていうのかな、決死隊、決行隊がまずどうやって行くかということが問題です。福島原発の吉田所長に山田さん始め数人の方に来てもらって、現場を見せてもらって何ができるのか判断することが必要だと思う。一日も早く、一時間一秒一分でも早くやるのが先決だというのであれば、それをまずどうやったらできるかということを、お手伝いしたくてここへ参加しました。

山田 小出先生は小さな実験設備を扱っていらっしゃいます。だから非常に少ない人間で仕事ができるんですね。ああいう時には知っているものばかりの仲間で行った方が非常に早いんです。余所者が入ってもらったら困ります。だけど福島原発の現場を見て下さい。何千人の人間が日々訓練も受けないでリクルートされて行っているじゃないですか。私は江戸川区に住んでいるのですが、錦糸町のハローワークの方が私のところへ訪ねてこられて、求人票を見せてくれましたが、一日4万円で雇っているのですよ。60歳まで、条件

なし。小出先生はああ言われるけれど現実はそのなんです。大きな設備で、しかもこれだけの大トラブルが起こった時にはそういう現実が実際に存在する。ここに大学の先生がおられるから実験プラントのことはよく分ると思いますが、実験プラントはそれこそ学生と先生とだけでやれるけれども、生産プラントはとてでもないけどそんなものじゃないです。安心して下さい。やることは山ほどあります。

?? 九州から出てきました。私は建設技術のNPOの代表を務めております。今日山田さんのお話の中で現場作業を重視しているのか、あるいは技術者というのか（退職というのは別として）技能者というのか作業者というのか、その辺の明確なものがないのがまず第一。私自身はBWRじゃなくてPWRの方の設計からずっと携わって現在までやってきた人間ですけれども、もちろん現場に入ってという意味ではなくて、いろんな技術的な問題も含めて解決していかなくちゃいけないということでやってきました。メールなどで読んでもかぎり、山田さんは事後循環で冷却しなくてはいけないという話をしておられますが、それと現場作業が優先だという話とがちょっと食い違っているわけです。今回の福島原発の中で津波だけという話ではなくて、耐震的にも問題があったという話が最近出てきております。すると事後循環で冷やすといってもその間に地震だって来るわけです。そういうことも含めて考えるという意味で、私自身が技術団という意味で、作業員あるいは技能者という限定をされてなくて、技術者というところに賛同して参加したということです。もちろん現場に率先して進んで行けと言えれば参加するつもりはありますけれども、現在の福島原発の中でどういう問題でそういうものが起こったか、それから事後循環の間に、それで問題はないのか、その辺りはもちろん専門家の方もやっておられるとは思いますが、当グループがどこまで関わっていくかという辺りまで、ご説明頂ければありがたいと思います。

山田 大変根源的なご意見だと思います。私が呼びかけさせて頂いた趣旨は原発作業です。技能者技術者というものを付けました。技術者に絞っておりません。むしろ技能者技術者というふうに申し上げました。技術者よりはむしろ技能者の方が大事だと思っております。私自身は技能者ではなくて残念ながら技術者になりますけれども、技能者の方が大事だというふうに焦点を当てております。なぜそうしたかという、私自身は原発のことについて一般的な知識はございますけれども、リアクターがどうなっているとか設計的な中身について詳しく把握しているものではございません。ここでなんらかのシステムをこうしたらいいとか、そういう提案を作る立場には毛頭ない。だけど作業をするには一定の知識と経験を持っているつもりなので、その部分に焦点を当てて提案をするというふうに考えています。なぜそれに絞ったかというもうひとつの理由は、よく新聞記者の方々には申し上げているんですが、自分が家を作るとき、いい加減な棟梁が来たら好き勝手なことを言えるけど、棟梁がしっかりしていたら恐くて変な注文は付けられないだろう。この間に福島

です。ずっとやってきたことというのは、素人目に見てもその場しのぎだったり、ちょっと小手先だったり、気になることが多過ぎます。技術をお持ちの方はその技術部分のところをしっかりとやって下さい、私達が動くことによってその部分もしっかりするようになってほしい、というのが私の呼びかけた意図でございます。ですから原発に関してちゃんとした知識、技術的な知識をお持ちの方は、むしろそっちの能力を活かしてしっかりした設備をつくることに頭を働かす、そういうことに力を注いでいただく方が大事なのかもしれません、というふうにも思います。これについては残念ながら私はその知識を詳しく持っておりませんので、おひとりおひとりに付いてこうした方がいいのではないかというアドバイスをすることはできませんが、私自身はそっちには行かなくてこっちだ、働く方だというふうに考えて呼びかけさせて頂いているつもりです。

?? こういう方が安全だという判断をする場合にはある程度全体の知識が分っていないと、正確な判断がしにくいんじゃないか。例えば地震で、ここにこういうヒビが入っているから、これはほっておいていいのか、あるいはどうかしなくちゃならないのかという判断も当然現場で出てくるわけですね。

山田 例えば今度の水棺の問題。水棺なんて簡単に東電さんは言っていますが、まさか水を入れられるように設計してないあの容器に1万トンの水を入れたら本当にもつのかって、原発の技術なんかなくても現場の作業をちゃんとできる作業員だったら、誰だって思いますよね。地震が来たらぶっ壊れちゃう。水を一万トンぶち込んであの容器の足がもつのかよっていうことは誰でも分かるでしょ。こういうふうにしてこうするのが一番いいのだよっていうのではなくても、これは駄目だということはあるよ、というのが本当の作業員、職人だと私は思っています。私自身が自分の技術でプラントを作った時に、やはりしっかりした職人はそういうことをきちっと言ってくださり、私の設計を変えてくれます。そういう職人になりたい。

海老澤 大阪から来た海老澤です。京大の原子炉実験所に64年から2002年までおりました。2002年に定年退職してもう10年目になるんですが、今でも東海では中性子実験を私の専門ですのでよく行って、また小出さん達とは、彼が入所して以来ずっと一緒に原発関連のことをやってきました。私がなぜ福島原発事故に当たって現場でやってみたいと思うようになったのかと言いますと、福島原発事故は今非常に強い放射線の下で、私の予測ではやはり非常に長期間うまく行ってですね、冷温停止の状態をうまく続けていても、やっぱり10年とか数十年経ってから放射線を断たないといけない。チェルノブイリと違って福島原発は石棺みたいなものは作れませんから、最終的には炉心を全部処理しないといけない。そういうことをやろうと思ったら何十年もかかるわけです。その間放射線の非常に強いところで沢山の被爆者が出ます。私自身はしかし現場のことを知りません

し、私自身はどういうふうに思ったかと言いますと、まずあそこの現場に入って、被曝作業をやってみる、現場のことをまず知りたい。原子力発電所のことを議論してきましたし、工学的安全性というものをずっと調べてきたんですけれども、本当の原発そのものを知らない。そういう意味では私自身は中性子実験を現在もしていますけれども、私が何か専門的なことで寄与できるとは思っていません。放射線下での作業では、それなりに経験がありますから、若い時は本当に放射線に恐怖感を覚えましたけれども、だんだん歳と共に、最近はかなり鈍感になっています。そういう意味でなにかできるのではないか、放射線管理ですとか、現場に行って何ができるかを考えようと。福島事故の帰趨は日本のこれからにとって、大問題になりますから、私としてもなにか寄与することができればと思っています。ほんの小さなことしかできませんけれども、長時間かかりますから。そういうことで、この会にも参加しているんです。

山田 私自身も研究もやってきたし、製造現場もやってきたし、プラントも作ってきたましたが、残念ながら実験、研究所の知識っていうのは生産現場ではろくすっぽ役に立たないというのは、海老澤さんがおっしゃった通りです。規模が十倍だと全く話が違うし、だいたい百倍という世界で、現場の設備とは百倍から千倍の違いがあるわけです。フラスコでやっていて50メートルのタワーの反動をどうやって動かすか絶対に分らないのと一緒だと想像してみてください。だから我々がやれることは、ひとりひとりやれることは、自分の専門知識を活かしてやるということよりも、一般的なことを知って、技術屋としてそれなりの知識をもって仕事をするということが一つ。もう一つは、今日来ておられる方の中では非常に少ないと思うのですが、昨日の毎日新聞の夕刊に載っている石田さんという方は鳶職でいらっしゃるんですが、この方は福岡原発の建屋を作った鳶職です。福岡原発で配管の溶接をやってきたという方も我々の仲間に入られています。メンテナンスの安全管理をやっていたという方もいらっしゃいます。そういう方々は専門の知識と能力を現場で活かして使ってもらえる。私は残念なことに専門の能力を使って現場で対応するんじゃなくて、一般的な能力、一般的な知識を使って仕事をするということ以上ではないと考えております。

?? 土屋先生にお伺いします。この会が現場に行って私達高齢者に何ができるかという
ことで、それに大変共感しております。ただ私達シニアの年齢は、本人達はもう被曝に対
する感受性が弱いので自分達のことは気にしないのですが、みなさんかなり多くの方が、
お孫さんをお持ちだと思います。私自身も一歳半の孫を持っているんですね。それでいろ
いろと調べているんですが、現場に行った場合、外部被曝も内部被曝もしますでしょ。内
部被曝の者が自分の孫と相対する時、どのような影響があるのかないのか、お教え頂
きたいなと存じます。

土屋医師 お孫さんをこれから作るならちょっと問題ですけども、いるお孫さんへの影響ですね。これはおっしゃるように現場で働いて核種を持ち帰ってしまうことが一番心配なわけです。ですから外部は帽子を被り、マスクを被り、防護服を被ってそれを脱ぎ捨てる。ただ体内に入ってしまったもの、これは作業が終わったところで測定をして、ある程度外へ自分から発散していることがあるとして、ある期間は他人と接触ができないというふうに考えないといけないですね。ただ体内に入ってそう遠くまで飛ぶ核種がある状況かどうかというのは、私は現場、原子力のことは全く素人ですから分かりませんが、今まで聞いた範囲ではあまりそういう可能性は少ないのではないかと理解しています。ただ先ほどの事前のチェックと事後の評価の面ですが、まさにそういうことで作業が終わった時のデータはしっかりおさえて、他への影響を残すことがあればやはり隔離というか、ある期間はやはり線量の落ちるまで我慢しておくことがベストです。

?? ある程度という期間は具体的にどれくらいを考えればよろしいでしょうか？

土屋医師 それは核種による半減期次第だと思うんです。それによってどれだけ測定できるか、測定値によって判断するしかないと思います。下がり方は半減期で極端に違いますので、何日の方もいれば極端に言えば何年も駄目な方が出る可能性もあります。そういうものは絶対に体内に入らないようにして頂きたいですね。

多田 知人を通して紹介してきて最初に参加をさせて頂いた者です。技術者でもなんでもありません。技能者でもないの、行動隊に入れる自信がなくて支援隊に参加しています。それ以来支援隊として何ができるのか、私も原発問題でいろんな集会に行ってピラを配ったり受付をやったり、自分のツイッターに意見を載せたりしています。ひとつ考えたのは、昨日のNHKのニュースでしたか、今作業員は二千人近くいるのですが、このうち実際に体内被曝の検査をきちんと受けてる人は五人に一人しかいない。五人に四人は体内被曝を検査しないとけないということすら知らない。あるいは知っていても受けない、というニュースがありました。驚くべきことではないかと思うんですね。2ヵ月も経ってあれだけひどい放射線が出ているにもかかわらず、直接現場に行って作業をしている人の被害状況をきちんと把握してないということ、もっと我々が訴えて、どういう形で訴えて行くのか、あるいはこの会として訴えて行くのか、方法論はいろいろあると思いますが、まずそういうことを我々支援隊は訴えることができるんじゃないかなと思っています。一人でツイッターやいろんなネットで呼びかけることもありますけれど、こういう会ができて支援隊もあるわけですから、その作業あるいは仕事として考えて頂きたいなと思います。

それから、チェルノブイリで何人がん患者がでたのか、何人死んだのかという正確な調査は全くないと言われております。全くないという語弊がありますが、チェルノブイリシンポジウムというのがチェルノブイリ事故から25年目に開かれて、そこで四千人

という推定値が出たんですね。チェルノブイリの被曝によって死んだ人は四千人だと。これをまわりの国からそんなはずはない、もっと多いという抗議を受けて、WHOが翌年か
なんかに再度検査をし直して、範囲を広げたんですが、九千人という推定値を出しました。
その後さらに他の機関が一万五千人ぐらだと。二十五年経ってもエンドレスなわけで、
受けた人が死ぬまで影響が続くわけです。さらにグリンピースは数万人だと。いずれにし
ても、一度なんらの形で被曝をすると何千人何万人の単位で癌で死ぬ人が現れる可能性が
あるということが分ってきているということじゃないかと思います。ですからあまり被曝
をしないということが絶対的に重要になってくる。エンドレスで影響が出る。チェルノブ
イリで被曝した人は今でも毎年死んでるわけですよ。それは被曝によるのか、生活習慣で
癌になって死んだのか、その区別がはっきりしないことがあるんで、なかなかはっきりした
数字は出せないというのが公式ですけども、いずれにしても調べればそのくらいの死者
数が出る。土屋先生、なにかご意見がありましたらお願いします。

土屋医師 私は医学なんで、いわゆる生物学なんですね。おそらくみなさま方は原子力だ
と物理化学のいわゆる自然科学系統を思い浮かべるでしょうね。自然科学は私も中学、高
校まで数学好きでしたけども、物理も好きでした。答えが明確に出る。プラスとマイナス
がはっきりしていて、その境界線というのがある時はあるけれどきわめて例外的にしか
ない。しかし生物学っていうのは、白か黒かではなく灰色が最も多い答えになってくるん
です。放射線の影響で死んだ、癌で死んだというのは、癌だと診断がついた数は必ず数えら
れそうなどと思うんですが、実は大変難しいんです。わが国で癌で死んでる人の正確な数
字はいまだにありません。これはひとつに、日本人がIDナンバーを持ってないというこ
ともありますけれども、それを持っているアメリカやヨーロッパでも正確な数は出てこ
ないんです。というのは、クロノジカルっていいですか、時間軸があるということで、そ
れと生活習慣病でなったのか自然発生なのか、イベントが影響した癌なのか、区別が難
しい。いろんな要素が生物学には入ってきちゃうもんですから、なかなか明確な答えが
ない。ただ 明らかなのは、例えば白血病はさっき言ったようにイベントからの期間が短
いから、これはすぐ統計的に出てきますので、この人がどっちでなったかというのは分
らないですけども、ピークは出るわけですよ。自然発生ではないという明確な答えが出
ます。もう一つ固形癌、形のある癌では甲状腺ですね。因縁性のあるヨウ素、これは甲
状腺にすぐ集積しますので、これは明らかに数が増えてる。それとここの診断も簡単
にできるということですが、大腸癌とか胃癌とか肺癌とか非常に期間が長いものにつ
いては、このピークは非常に低くてだらだら行きますので、なかなか30年前40
年前のイベントの影響っていうのは証明しにくいということがあります。したがって
正確な数字を求めて議論し始めると、むしろ議論が無駄な時間になってしまいま
す。しかし何万人起こるといえるのは現実なので、防げないといけないと思
うんです。ですから白黒の明確な部分については事前にチェックをしないといけ
ない。ところが灰色か白黒の分からないところを事前にいろいろ

議論をすると、議論が先に立って行動がいつまでもできなくなるということがありますので、グレーのところについては事後の評価ということにして、最初から明確に計画を立ててほしいですね。そうすると次の方のためにこれが事前のことに活かされます。分からないところまで全部予防しようとしたら、素人目で考えると原発の安全神話に繋がってきちゃうと思うんです。全部用意したら安全にできるんだ、ということをやっているとそうなるちゃいますので、怪しいところは怪しいで、むしろ明確なものは必ず完璧に予防しようという形で医学的なことは考えて頂いた方がよろしいんじゃないかと思います。

イナガワ 参議院の大島九州男議員お越しでございますので、一言ご挨拶を頂きます。

大島議員 私は牧山さんと予算の理事を一緒にやっていた関係で、彼女が一生懸命取り組んでいるこの問題について少しでもお役に立てばということで、参加させて頂いております。みなさまがこのような形で集まって、実際に作業をいろんな形で貢献をして頂けるために、我々に何ができるかということをしっかりやらせて頂こうと思います。ついては私が教えて頂きたいのは、どういう分野の方がどのくらいいらっしゃって、この分野については自分はこういうふうにやりたい、現地でこういう指導ができる、現地でこういうことがやりたい、やれるんだということ、体系的に示して頂いた資料を頂ければありがたいなというのが、私が個人的に思っていることございまして、私自身は松本環境大臣、防災担当の大臣と直接そういったお話をさせて頂ける資料があると話しやすいな、というのがございまして、今日はそれをお願いに来たところでございます。

山田 今の件について。このチームは実際に今あるチームとして仕事をするというのではなくて、このチームが国レベルでのちゃんとしたチームを作るための火点け役だというふうにお考え顶きたい。ですからここに何人どういう人がいるということはあまり問題ではなくて、実際に必要な人間は何千人とか何万人とかいう人数になります。ですからたかだか160人170人、全体合わせても千人なんて数は、爪の垢ぐらいでしかない。その中でも原発に携わった人もおられるし、設計した方もおられる、保全をやった方もおられる、冷却機を据えた方もおられる、建屋を作った人も、パワークレーンを運転した人もおられる、というわけで一通り並べたら小さな設備ぐらいすぐ作れるぐらいの作業員はほぼ揃っているし、宿舎で料理をするって人もいます。ありとあらゆる方がそういった形で自らの意思でこの仕事をちゃんとやろうという、そういう部隊を国レベルで、あるいは国がサポートした組織として創ってほしいというのが先生方をお願いしたいことです。

大島議員 その点について、見せ方の手法の問題があります。国を動かして行こうとする時、国の人達はそのイメージを会議に出てくるとみなさんと共有できるんですけど、ほとんどそういう人達は会議にも出てきませんし、直接触れないので、イメージが湧かないん

ですね。だからここでそういったものを、よく役所の書類というのは、ポンチ絵一枚二枚で我々に全部説明するようなイメージを与えてくれるというものがあるんですから、そういったシュミレーションした絵があつて、実はこういうのだと、こういうことを自分達はしっかりとやるんだと、そういったものを頂けると我々は役所だとか、いろんな議員さんにも非常に説明しやすいのですね。どうしても私が言葉だけで伝えると伝言ゲームみたいになって薄くなってしまいますので。

山田 牧山先生とご相談しながら、なるべく早くそういうポンチ絵みたいなものを書く努力をしてみますのでよろしくお願い致します。先ほど多田さんが言われたことに関してもうひとつ、今の作業環境が非常に悪いということについて何かすべきだというご意見がございましたが、このチームとしてはそのことにはいろんな問題があります。全部なんとかしなきゃいけない問題なのですが、それをやっているところまで手が回らない。だから私はとしてはこの作業チームを作り上げるということだけに一点集中して、多田さんが言われたことは見過ごしていい問題だとは全く思っておりませんが、私は手を出さないといいふうにしたいと思っておりますのでお許し頂きたい。

西川 この団体を立ち上げたコンセプトは非常にロマンチックな夢があるのですよ。それに私は揺り動かされました。命を懸けてみんなのためになにかをする。素晴らしいことです。これを、高度成長の中で生きてきた僕達は50年間忘れていた、というかどっかに置いてきた。それを思い起させてくれたのが、私がこれに参加するきっかけです。原発のことは分かりません。どれだけ現場が厳しいのかは分かりません。しかしなにかできそうなこと、2050年には40%以上が60歳以上になっちゃうという、この国にある僕達がやれることをなにか見付けそうだという、一つの夢があつて来ているのであつて、はっきりとこれをやるんだというピンポイントは、必ずしも山田さんの中にも明確ではないような気がします。みんなですべてを議論しながら進めていっていいんじゃないか。はっきり言って今日明日でこの問題が解決できるなんてことは誰も思っていないし、山田さんも思っていない。十年かかるかもしれない。十年僕らは生きていかななくてはいけないんです。この旗を掲げながらね。明日明後日もう止めたつていうのであれば、もうそれはこういうロマンチックなことではないと思うんです。そのためこういうことをやる時に、事務局を作ってください。牧山さんががんばつてやってくれていますけど、牧山さんと山田さんだけの労力で、千人の人にメールを送つたりFAXを送つたり、国会議員の何百人の人に連絡をとつたりはできません。そういうことは60歳以上の人は苦手です。はっきり言って。パソコンを使うのだからままだらない人も沢山いる。若い人にやってもらいたいぐらいです。そこで私はまず第一に一刻も早く事務局を作つてほしい。そしてもうひとつ、いろんな議論をしちゃいます。ここ3回やっているけど、3回ともランダムにいろんな提案、意見 批判が出てくる。これをまとめないと議論にならない。ということでそのテーマ別の討論、

文化祭形式みたいなものをやるためにも、事務局を作ってもらいたいと思います。それから、いろんなメール、いろんなブログで、おそらく山田さんのところには見られないぐらい来てると思います。それをまとめる人がいるといい。仕分けじゃないです。蓮舫さんがやっているような。区分けです。区分けをして、こういう点はこれはこうで、これはちょっと止めておこう。じゃこれとこれ、これについて議論しよう。それについてはこんな一時間ぐらいの議論じゃ駄目です。もっと安い会場、区役所の空いているホールなんかを使えばいいんです。そのために今百八十何万とかのカンパがある。ここでその会場を借りるためにカンパしろと言われたら私は出しますよ。喜んで。先生方の都合を合わせながらの非常に中途半端な議論は何回やっても欲求不満になっちゃうだけです。それが二点目。三点目。決して老人だけでやる必要はないでしょう。僕も今年68歳です。ですから老人局でがんばるってことにすごくロマンを感じます。けども10年後20年後もやんなきゃいけないんだったら、今40歳の人30歳の人に加わってもらってもいいのではないですか？ 拒否する必要はない。とすれば若い人達とどうエネルギーを繋げるのかの方法論も残念ながら山田さんの定義にはない。今のところ。それを考えましょうよ。最後に、高邁な目標を掲げるんじゃなくて、知恵のある老人達だからできる小さなことを提案し続けましょうよ。山田さんが言っているピンポイントとしての原発の暴発をまず封じる、これは大賛成です。封じるためにやらなければいけないことっていっぱいあると思います。例えばひとつ私が思い付いたのは、あそこの中に監視カメラを千台ぐらい置くってことはできないんですか。安全な所でその状況、水蒸気が上がったとか、水が流れているとか、もう誰が見ても分る変化が起こっているということ、カメラを付けるだけで世界中の人がその絵を見たら、専門家がこれは化学物質が流れているんだよ、ここを止めるにはこの化合物を使えばいいんだよって言うてくるかもしれない。それを今残念ながら政府が統一的にやれてないから、みんなの知恵、これだけ知恵とエネルギーがあるのに、それが活かされない状態になっているのではないですか。残念ながら私も自然科学系の人間ではないけれど、出版社を退職したもんですから、PR、みんなに知らせるということについては、ぜひご協力したい。そのためにこの会の名前を考えた。私がこの会に参加した理由もそうです。アクティブ・エイジという言葉。WHOなんです、アクティブ・エイジ、元気に歳を取っていくってことなんです。ただ老化していくんじゃなくて、積極的に歳を取っていく。これは今世界的な運動なんです。もうNPOもあるぐらいです。そこにもうひとつ付けます。山田さんも学生運動をやられたという経験がある。アクティブ・エイジング・オルガナイザーというのを昨日の夜思いついたんです。略して「エイ・エイ・オー」。

山田 沢山の提案をありがとうございます。最初に事務局ですけれども、月曜日から事務所を開いています。今私がここに来ている間も五人ぐらいの人がデータベースの入力を一生懸命勉強している最中でございます。それまでは私が半分徹夜しながら、毎日みなさんが送ってくれたメールやFAXを確かめていたんですが、これからはやらなくて済むよう

になりました。まずデータベースの処理をちゃんとして、それから情報発信をきちっと、来たメールに対してきちっと答えてゆく。それからメディアからのインタビューが非常に多くございますのでそれにきちっと対応すること。つい先ほどもBBSから取材の依頼が来ていますが、そういうことも全部代わりしてやってくれるようにしたいということでスタートし始めました。正直言ってスタートする時が一番しんどいんですね。昨日今日、一昨日明日ぐらいが結構しんどいんですが、今週中にひとまず船出して、来週からすこしリンクアップ、仕事の幅を広げてゆくようにしたいと思います。

名前については今募集している最中ではございまして、こないだのメールでみなさんにも募集のご案内をしましたけど、思いついたことを流して下さい。これも担当の方が今全部プールして溜めてますんで、そのうちに整理してご相談します。いっぺん付けた名前を変えるというのは非常に難しいので、愛称をつくるということでやることにしますので、「エイ・エイ・オー」になるかどうか分かりませんが、議論をみなさんでして頂きたいと思っています。

それから、老人だけでやる必要はないという点。これも、もう昨日考えが出ていることでして、先ほどからもここでも出ましたね。若い人がやらなくちゃいけない仕事もあるし、年寄りがやんなきゃいけない仕事もある。女性にやってもらわないといけない仕事もある。そういう意味で、たぶん愛称を付けるとかなんかそういうイベントをきっかけにスコープを変え、スコープを広げてセグメントをちゃんとはっきりさせる。そういう仕事をせにゃいかんかと考えていますので、またお知恵を拝借したいと思います。最初の呼びかけは60歳以上の技術技能者ってことにしましたけど、これは言うならば象徴的な存在であって、実態はもっと幅広い、裾野が広い。

それから高邁な目標だけでなく老人の知恵を生かして小さなことも提案しようという点。これについて、一昨日の院内集会でも出たと思いますが、原発がまだ五十何基あるわけです。これがいつどんなことが起こっても大丈夫な態勢を作っておくというのが、我々の運動の続きになきゃいけないんじゃないかっていう議論、それから避難している方々の救援。これは地震津波天災で避難している方と原発で避難している方では、私の聞いているかぎりでは、かなり状況が違いますね。人災で避難した方は精神的にもものすごく辛い状況になっていると思うんで、そういうことも含めてそういう方々の支援というのが、もうひとつ一般的なボランティアとして別にあってもいいんじゃないかって議論もありました。それからもうひとつ、今日はまだ議論に出ませんでしたけど、私どもが何週間か前からやっている議論なんですけど、汚染地帯のモニタリング、時間をずっと追って汚染の状況をモニタリングしてゆくということ。それをし続けて解析することが必要なんですけど、これも農水省と環境庁だったかな、縦割りになってやっていて、データの基準も違う、全然駄目だって話をこないだ山下茂先生の話で聞きましたが、そんな事をよく調べて、その調整をする、あるいは自らちゃんと調べるような態勢を作り上げる、というふうな議論もありうる。私ども本来の動きがもうすこし具体的化して、ある程度収まったら、次にその辺も考えたい。

そういう意味で、行動部隊、最初に提案している行動部隊がしっかり動いたら、残していた次のことをやんなきゃいかんということが起こり得るかもしれないなってことも、ちょっと頭の隅にあります。

山崎 先ほど提案された文化祭、これは話を見せるためにはどうしても必要ではないかなと思います。健康のリスクというテーマ、作業内容、さらには組織化、これを若いものも含めてやるのかどうか、だいたいそういった三つの大きなテーマに話が流れているように思います。時間帯を区切って、この時間は組織、健康をテーマにやりますというようにすると内容は濃くなるのではないかと思います。例えばモニターの設置、これも非常に重要なことだと思いますが、しかしこれをここの組織でやるというのは現実的に難しいのではないかと。そういう意味では議員の先生を巻き込んでそれを東電に訴えてゆく、世界中でこれを常に注視する、そういうふうな環境が作られれば、世界中からいろんな形での応援や支援がくるのではないかと思います。現在モニターであれば、TBSのカメラで遠くから見るだけなんですよね。それもたまたま白煙がものすごく流れてくると、なぜか知らないけれど突然切れてしまう。そういう中でこちらの方は原発の状況を注視しているわけですが、まずモニター設置が非常に重要だと考えております。そして私が一点お話をさせて頂きたいのは、作業内容でございます。先ほど小出先生の先輩の方が、石棺化は難しいという話だったんですけれども、現実としてどういうことで難しいのか、こちらはちょっと知る由もないのですけれども、建屋内が炉心の辺り300ミリシーベルト、それを優に越えるような中で、また水蒸気、湿気がひどくて決死隊のように作業が入って10分程度で脱出しなくちゃいけない。こういう状況を考えれば石棺化は難しいという判断だったのかと、こちらは推察しているのですけれども。チェルノブイリに関して新しい石棺を作るという案が出ておりますが、チョエルノブイリの周辺にレールみたいものを引いて、あらかじめコンクリートで固めた建物を他で作って、そのレール上を石棺というかコンクリートの建物を引きずって、そして石棺完了というパターンがあるようでございます。そういう形であれば石棺ができるのかなと、素人なりに考えておるわけですが、その点に関してご意見を頂ければと思います。

山田 石棺の問題については海老澤さんに。

海老澤 石棺が難しそうだというのは、福島の場合、炉心が固まりで、発熱がずっと続いている。だんだん落ちてゆきますけれども、これは非常に冷えにくい。だからずっと冷やし続けてゆかなければいけない。今すぐできる問題ではないんです。全部自動的に回収できるような、それはスリーマイルでもやっているわけですよ。そうしないと、あれは格納容器の中に炉心があるんですけど、そいつを撤去するためには、やはり全部自動的な装置の開発、装置開発からしないといけませんから、それは非常に長期間かかる。それまで

は冷やし続けてゆく他にない。まだ使用済み燃料だってある。燃料は比較的撤去しやすい、破損してなければね。たぶん溶けて崩れているのでなかなか大変で、チェルノブイリで石棺にせざるをえなかったのは、爆発して粉々に散ってしまったので、発熱はあんまり大きくないから石棺。あれは大量な放射性廃棄物ですから。それと日本とロシア、ウクライナでは、土地の利用価値の問題もあると思うんです。要するに、あの広い範囲がいつまで石棺を続けていいのか分らない。プルトニウムなどは何万年でしょ。そういうものを考えたらやはりなんらかの形で、どんなに困難であっても密封化、容器に入れて冷却、要するに管理できるということ。それはもう非常に大変な作業だから、今どういふふうにしたらいいか全く分かりませんが、そういうものをこれから時間をかけながら考えなきゃいけないと私は思います。でも実際には環境がすごい放射線環境下ですから、まずその辺をぼちぼちとやっていく以外にないわけですよ。今原子炉の状態がどうなっているのか分からなくて、本当は予断を許さないわけですけど、一応は冷えているから、現在やってることを続けて、時間を稼ぎながらいろいろ付け加えてやっていく以外ないんじゃないかと。

山田 今の石棺にからんで、土嚢で固めればいいんじゃないかと言っている方もいらっしゃるみたいなんですが、ウェブを見ると怖いことがあるのですね。

海老澤 チェルノブイリとスリーマイルと福島と全部タイプが違うわけですよ。それを同じレベルで比較してもしょうがないし、話も両方きっちり入ってきていないレベルで、私がどうのこうの言っても仕方のない話のような気がします。

山田 この辺の議論は、私としてもこのチームではしたくない。個人としてはして頂いても自由ですけども、チームとしてはしない。

?? 私は今問題になっている大熊町から避難してきている者です。立場上少しでも情報を聞きたいと思って来ました。原子力に行こうと立ち上げている話を聞きましたので、私もぜひ入って一日でも早く回復したいと思って、参加したいと思って来ました。東京へ着くまで2週間かかりました。いろんなことがありました。これから私達が取り組むにしてもなんにしても、この情報が当の被災者には全く伝わらないということはどうにもならないことです。そのために東京に来るまでに2週間もかかる羽目になったわけですけども、これから原子力に行ってやるにしても、ここまで来る間でも情報がない。我々が現場に入ることになった場合にはなによりも情報が頼りです。なぜなら、どのように我々労働者の放射線管理をしてくれるのか、全く疑わしいことばかり続いております。年間100ミリシーベルトと言っては、また200ミリにしましようとか、それも国のどこの情報か知らないけど、都合に合わせて我々労働者が飲まされるのであれば、たまったものではありません。それと今、前に話した方、命を懸けて行くという、これは間違っています。命を

懸けて行くなら誰も行きません。私も原子力発電、計力、点検 メンテナンス全てやってきました。その中である程度は放射線というものに対する恐怖は消えてゆきました。放射線、放射能 みんな大概は恐れることはないです。これは安全で使っていかなきゃ駄目なわけです。安全に使うことが第一条件として、時間と放射線量、これをうまく使ってゆけばなにも怖いものではありません。ただその数字というものを、我々は科学者が決めたことに沿ってやってゆくわけなんですけれど、それが知らないでひどくなったら、一歩たりとも仕事は前に進まないと思はれます。ここに来るまでに20km避難して下さい、30km避難して下さい。そこで止まったままなんですよね。なぜそれだけしか言わないんですか。私は私なりに考えていることはありますけれども、今とんでもない50km範囲まで福島人は自主避難。前は円形で示していたものが、地図で表していますよね。我々にしたらどこを信用していいのか分からない。そのようなことが、今までの報告とかそういったもので変えてゆかなければいけないもの。我々には地図で示す。円形で示すのではなくて地図によって示すような形を取るとか、そのくらい上の方で決める方達に信頼がなければ、作業員として参加することに踏み切る人間も少なくなっているのではないかと思います。私は早くさっさと鎮めて、早く帰りたいです。だから参加するのです。だから私なりの立場では、俺が福島に出るしかない。私だってどうのこうの言いたい。そのために私個人では、私達が率先してやらなければいけないという考えもあります。ちょっと放射能から全くはずれちゃうんですけど、今避難している若者はいっぱいいます。元気な若者。職場を失い、職場ではなくても子供の学校のために避難する。遊んでる方がいっぱいいます。この人達も救ってもらいたいと思います。仕事を与えるということも大事ですけども、家族と離れ離れの遠出になるわけなんですけれども、そこを説得して若者に仕事をさせる意欲も出してもらいたい。交通事故に例えますと、交通事故で怪我をして入院した、医者は完治してると言うにもかかわらず、全然働く気がない。というのは怠け癖がついてしまうんですね。私が一番心配しているのはそこなんです。今避難している人達が怠け癖ができては困る。実際に会津若松近辺では、補償金やなんか出たせいかもしれませんが、はっきり言って恥ずかしいようなんですけれども、どこのパチンコ屋も満員だそうです。これは私なんか二次災害とでも言いたい気分です。そういうことにならないように若者を説得するカウンセラー的なものも配置して、一日も早く職に就かせて頂きたい。避難している私達の方からも皆さんにお願い致します。